



地球の歴史、大昔の
甌島を体感しに来て
ください!

甌はひとつ推進課鹿島駐在
専門職員 三宅 優佳

2008年に、甌島ではじめて獣脚類恐竜の歯や肋骨など、恐竜化石が見つかった以降、ケラトプス類の歯や竜脚類恐竜の歯が相次いで発表されました。私は、そのころ熊本大学の学生で、研究チームとして甌島に来ていました。その後、甌ミュージアム恐竜化石等準備室が開館した2015年からは、こちらで専門職員として働いています。地質や化石の研究しながら、展示の作製や化石に関する講座などを行っています。毎月第三土曜日には、化石のストラップ作りや恐竜のすす払いなど、体験できるプログラムも実施中です。

この夏はぜひ、海の幸と絶景と恐竜が楽しめる甌島へ!

甌はひとつ推進課鹿島駐在
専門職員 山下 大輔



私は、昨年度に専門職員として着任しました。3年前に上甌島で発見された、昨年発表されたのが、ハドロサウルス類の大腿骨の化石で、その大きさから恐竜の全長は10m以上あったと推定されています。見つかった恐竜化石の中では、最も新しく、6600万年前の恐竜絶滅の直前期のものともみられていて、絶滅直前の恐竜の生態を解明する貴重な手がかりになると考えられています。鹿島町だけではなく、上甌島でも見つかったということ、これからはますます甌島が「恐竜の島」としての知名度を上げていくことを期待しています。このポーズの意味ですか? 普段からいただきたいこのポーズで生活しています(笑)

甌島の恐竜 マメ知識

- ①アフロベナトル
今回の表紙も飾っているアフロベナトルは、アフリカのハンターという意味を持つ恐竜です。甌島で見つかった獣脚類恐竜の歯と同じような歯を持つことから比較標本として展示されています。
- ②マラウイサウルス
マラウイサウルスは、白亜紀に繁栄したティタノサウルスの仲間、竜脚類恐竜としては小型な分類で体長が10mほどです。これらは、甌島で見つかった獣脚類恐竜の歯と同じくサイズの歯を持つことから比較標本として展示されています。
- ③パラサウロロフス
上甌島で発見された化石は、ハドロサウルス類の仲間とみられていて、ハドロサウルス類の代表として、大きさの比較のため、パラサウロロフスの標本を展示しています。

第3回

キジカケル
突撃レポート!

~甌島の恐竜たちを
目撃せよ!編~

キャラクター
デザイン:
蟹江はるか
(地域おこし協力隊員)

①アフロベナトル

②マラウイサウルス

③パラサウロロフス

甌ミュージアム恐竜化石等準備室



▲上甌島で発見されたハドロサウルス類の大腿骨の化石。長さ70cmで幅28.5cm。企画展でも展示されます。



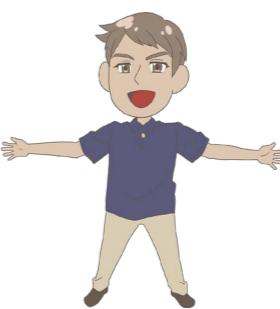
▲角竜類恐竜のプロトケラトプス類の歯は、日本で初めての発見です。

二人の、とても楽しそうに、そして熱く恐竜とこの準備室について話してください。好きなんだなあと感じました。二階には、アンモナイトの化石の展示や化石のクリーニング室まで備えています。そして、7月14日(日)からは、企画展がスタートし、期間中には、化石のクリーニング体験や発掘体験会なども実施されるそうです。(詳細は、広報薩摩川内6月号お知らせ版2ページや市ホームページ、チラシなどで確認してください)

最後に「恐竜化石をきっかけとして、甌島全体と甌島ツーリズムが、ますます盛り上がりつつあればうれしい」と二人が話してくれました。ぜひ、皆さんも甌ミュージアム恐竜化石等準備室に足を運んで、現代に迷いこんだ恐竜たちに触れ、太古の地球の歴史に思いをはせてみてくださいね。



さらに、現在建設中の蘭牟田瀬戸架橋が完成すれば、甌島は全てが陸路で結ばれ、準備室のある鹿島町は、ちょうど甌島の真ん中ほどに位置することになります。甌島における文化や観光の拠点施設として、これからも目が離せません。



ワクワクドキドキしながら中に入ると、入り口から今にも動き出しそうな迫力の恐竜のレプリカたちが迎えてくれました。「準備室」と言っても、そこはもう2階にまでわたる、まるでタイムスリップしたかのような広大な空間です。館内には、レプリカだけでなく、実際の恐竜の化石や解説パネルなどが展示されていて、歩いて見て回るだけでも恐竜の歴史に触れ、太古の地球を感じることが出来ます。

情報収集を開始すると、どうやらその施設は、下甌島の鹿島町にあることが分かりました。



甌島には恐竜たちが集う「甌ミュージアム恐竜化石等準備室」という異空間があるという情報が入ってきました。恐竜といえば、太古の時代、地球を支配していた子どもたちが大好きな地上最強・最大の生物。これは絶対に自分の目で確かめてみたいと。



▲甌島に行くためのガイド。川内駅の観光物産協会や市役所でも手に入ります。

早速、船の時間を調べて翌日には、川内港ターミナルから高速船甌島に乗り、下甌島の長浜港ターミナルへ。そこから路線バスに乗り、鹿島町へ。その準備室は鹿島支所内にありました。

館内をウロウロしていると、偶然、笑顔がすてき過ぎる研究者の二人に出会うことができました。二人は、市役所の甌はひとつ推進課鹿島駐在の専門職員で、三宅優佳さんと山下大輔さん。ここで、甌島の化石や地質などの研究をしているそうです。研究の合間を縫って、少しの時間だけ館内を解説していただきました。